

# リハビリテーション研究法特論（量的研究）

[講義] 第1学年 前期 必修 2単位

【担当者名】 吉田 晋 ysdssm@hoku-iryo-u.ac.jp 武田涼子 浅野雅子 桜庭 聡 永見慎輔

## 【概要】

リハビリテーションの効果を表す尺度は脳波や筋電図といった神経生理学的なパラメータから比較対象試験、さらには疫学的調査研究まで幅広い。本講義では、こうした対象者の変化を量的変化としてとらえるための手法を学び、リハビリテーションの効果を科学的に立証するためのスキルを身につけることを目的とする。

## 【学修目標】

1. 人から得られる各種パラメータについてその特性を説明できる。
2. 各種データの性質に応じた解析手法を使用できる。
3. 実験的研究（介入研究）のプロセスについて説明できる。
4. 実験的研究における様々なデザインの特性や利点欠点について説明できる。

## 【学修内容】

| 回     | テーマ   | 授業内容および学修課題  | 担当者  |
|-------|-------|--|------|
| 1～4   | 量的研究1 | 脳波、筋電図などの神経生理学的パラメータの計測と解析、運動機能やADL能力などの間隔、順序尺度データの解析手法について担当する。               | 吉田 晋 |
| 5～8   | 量的研究2 | 運動学的、運動力学的時系列データの計測と分析、パフォーマンスの捉え方や運動シミュレーションについて担当する。                         | 武田涼子 |
| 9・10  | 量的研究3 | 比較試験やRCTなど、主に介入デザインに関する臨床データの解析手法について担当する。                                     | 浅野雅子 |
| 11・12 | 量的研究4 | 機能的近赤外分光法（fNIRS）による計測の概略（デザイン等）と得られるデータの解釈、また認知課題等における行動学的データの計測や解釈方法について担当する。 | 桜庭 聡 |
| 13～15 | 量的研究5 | レビュー研究を行う際のプロセス、統計分析の技術、および結果の解釈に焦点を当てる。                                       | 永見慎輔 |

## 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

講義への参加状況（50％）とプレゼンテーション（作成資料および発表内容50％）により評価する。

## 【教科書】

適宜資料を配布する。

## 【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること（280分）。

## 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎を修得するというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

## 【実務経験】

吉田 晋（理学療法士） 武田涼子（理学療法士） 浅野雅子（作業療法士） 桜庭 聡（作業療法士）  
永見慎輔（言語聴覚士）